

大阪インターナショナルチャーチ

ゲストスピーカー：ブラッドフォード・ハウディシエル

2023/04/23

説教題: 「**OIC 信仰告白、パート 6: 私たちは義認と救いが信仰によって受けられる神の恵の賜物だと信じています。**」

鍵となる聖句: ローマ人への手紙 3:24-26 – 「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。<sup>25</sup>神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。<sup>26</sup>それは、今の時にご自身の義を現わすためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。」  
エペソ人への手紙 2:8-9 – 「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。<sup>9</sup>行ないによるものではありません。だれも誇ることのないためです。」

キリストは、よみがえられました！

復活祭のお祝いから 2 週間が経ちましたが、私はこの復活祭の挨拶「キリストはよみがえられました」を使い続けています。伝統的に、クリスチャンはイースターの日曜日だけでなく、その後数週間もキリストの復活を祝ってきました。私たちは現在、「イースタータイド」と呼ばれることもあるイースターシーズンにいます。この期間は、キリストの昇天のお祝いまで 40 日間続きますが、一部の教会の伝統では、ペンテコステの日まで 50 日間続きます。私はそれを 40 日間の記念として見ることを好みます。今日は、今日のメッセージの主要なトピックについて話し合う方法として、イースターとその余波の物語を終えるのに少し時間を費やしたいと思います。

過去 2 回の日曜日に、キリストの復活、罪と死に対するキリストの勝利、復活された主に対する多くの証人のすばらしい話を皆さんと分かち合いました。物語は続きます。ルカの福音書の終わりと思徒言行録の冒頭で、キリストの天への昇天が言及されています。これらの本は両方ともルカによって書かれました、そしてこれは彼が彼の 2 番目の本の冒頭で言っていることです:

使徒の働き 1:1-3 – 「テオピロよ。私は前の書で、イエスが行ない始め、教え始められたすべてのことについて書き、<sup>2</sup>お選びになった使徒たちに聖霊によって命じてから、天に上げられた日のことまで及びました。<sup>3</sup>イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現われて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。」

ルカが書いた本は両方ともテオピロという名前の誰かに宛てられています。この名前をよく見てください:「神」を意味するテオと「愛」を意味するフィル。「テオピロ」は「神を愛する人」を意味します。この名前は、テオピロという名前の実際の人物を指す場合もあれば、キリスト教徒、神を愛する人を指す場合もあります。これらは、神を愛し、神を知りたいと願う私たちのための本です。

ルカの最初の本であるルカの福音書の中で、彼は、「イエスが行い、教え始めたことすべてについて、<sup>2</sup>彼が天に連れて行かれる日まで」について書きました。先ほど申し上げたように、ルカによる福音書はキリストの昇天で終わります。この第二の本で、ルカは使徒の働き 1:3 で、イエスが「苦しみを受けたのち、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを示された」と語っています。先週のメッセージで、私はこれらの説得力のある証拠のいくつかを概説し、そしてこれらが疑い、躊躇している弟子たちをキリストの大胆な証人に変えました。また、ここ3節には、イエスが40日間にわたって使徒たちに現れたことが書かれており、それは彼が天に昇天するまでの時間枠を与えてくれます。

2節は、彼が使徒たちにいくつかの命令を与えたと言っています。3節は、彼が彼らに「神の国に関することについて」語ったと言っています。この間、イエスが使徒たちに言われたことの中には、福音を広めるように彼を任命することでした。先週、私はマルコの福音書 16:15 を読みました。そこでイエスは彼らに「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」と言いました。マタイの福音書 28:18-20 で、イエスは彼らに大宣教命令を与え、彼らは「あらゆる国の人々を弟子としなさい」と言われました。マタイは私たちのために伝道宣教の主な活動を記録しています:行くこと、弟子を作ること、バプテスマを施すこと、教えること。ルカによる福音書の終わりに、ルカは私たちのために福音宣教の主な内容を記録しています。

ルカの福音書 24:45-48 – 「そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、<sup>46</sup>こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、<sup>47</sup>その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。<sup>48</sup>あなたがたは、これらのことの証人です。」

福音メッセージの重要な内容は次の通りです: 旧約聖書の成就において、キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえり、使徒たちはキリストの名において罪の赦しの

ための悔い改めのメッセージを宣言しなければならない。罪の赦しに対する悔い改め。これが救いの道です。

使徒の働きに戻りましょう。1章4節と5節はこのように言っています:「彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。<sup>5</sup>ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」

彼らは聖霊のバプテスマを受けるまでエルサレムで待つことになっています。それはペンテコステの日に起こり、使徒行伝第2章でそれについて読みました。

しかし、ここで、使徒1章の冒頭の節で、イエスは劇的な方法で使徒たちから離れます。使徒1:9を読みましょう - 「こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。」雲に包まれて、見えなくなられた。これが私たちがキリストの昇天と呼んでいるものです。

そこで、私には疑問があります。イエスは今どこにいますか?ニケア信条がイエス・キリストについて何と言っているかを見てみましょう。信条の真ん中からのいくつかの行は次のとおりです。

聖書に従って、三日目によみがえり、

天に昇られました。そして天の父の右に座し

キリストは現在天におられ、父の右に座しておられます。これを教えてくれる聖書箇所がいくつかあります。へブル人への手紙1:1-3を読みましょう - 「神は、むかし先祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、<sup>2</sup>この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。<sup>3</sup>御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。」

3節の終りに再び:罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。イエスは十字架上で罪の犠牲となられた後、死者の中からよみがえられ、天に昇られ、神の右に座されました。

へブル人への手紙10:12 - 「しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、」

これらの箇所から、キリストは人類のために引き受けるべき重要な任務、つまり私たちの罪の犠牲となることが分かります。その後、彼は父なる神の右に天の座に着きます。これは権威と権力の座です。

ジョン・パイパー牧師は、これらの聖句について次のコメントをしています。

「罪を聖められたとき、神の右に座った」と書かれているのは、この卓越性と名誉と権威と力の場所に座ることは、キリストの罪の聖めの働きがいかに完璧であったかの宣言であったことを意味します。キリストは、私たちのために罪を負う働きの完全さと完成によって、この名誉ある場所にふさわしいものでした。

私がここで話した4月の3つの日曜日の中に、私は私たちの罪からの救いと引き換えるための十字架でのキリストのみわざ、イエスの死と復活、罪と死に対するイエスの勝利、その復活の証人、そしてイエスが天に昇天する前に何度か使徒たちに現れた40日間について話しました。これでイースターの物語を終わり、今日の説教のメインピクチャーへの移行として役に立つと思います。

今日は、大阪インターナショナルチャーチの信仰告白に関する連載を続けます。先月、私は信仰声明の第5項について話しました。その段落をもう一度読んでみましょう。

人は、神の御姿に似せて造られたにも関わらず、罪を犯し、迷い出た。ゆえに、聖霊による新しい生まれ変わりによってのみ、その救いと霊なる命を受け取ることができる、と信じる。ローマの信徒への手紙 5:15-19、ローマの信徒への手紙 8:15-17。

今日の説教の焦点は第6項です。それを読みましょう：

イエス・キリストの流された御血とその復活だけが、信じる者すべての義と救いの原点となり、信仰によりイエス・キリストを受け入れた者だけが、聖霊によって生まれ変わり、神の子どもとなりうる、と信じる。ローマの信徒への手紙 3:25-26、エフェソの信徒への手紙 2:8-9。

私のイースターメッセージで、私は人類が罪に陥った話をしました。私は皆さんのために、私たちの神からの分離に関するいくつかの聖句を引用しました。

イザヤ書 59:2 は「あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」と言います。

ローマ人への手紙 3:23 – 「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」

この神からの分離の状態を改善するためには、罪のための犠牲がなければなりません。

ヘブル人への手紙 9:22 の後半を読みましょう – 「血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。」

罪は深刻な問題です。そして、それを解決する唯一の方法は、血を流すことです—それは死が起こらなければならないことを意味します。アダムとエバがエデンの園で罪を犯したとき、彼らはすぐに裸であることを恥じ、身を隠そうとしました。彼らはいちじくの葉を縫い合わせて覆いを作りました(それは創世記 3:7 にあります)。彼らはまた、神から身を隠そうとしました。しかし、神は彼らを発見し、それから彼らを園から追放しました。そうしながら、主は男女に新しい覆いを与えられました。ここでも、神が救いの為に、いつも手を差し伸べておられるのが分かるでしょう。

創世記 3:21 – 「神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。」神は男性と女性のために皮の衣服、つまり動物の皮の覆いを作りました。動物の皮が利用可能になるには何が起こらなければなりませんでしたが?動物は死ななければなりませんでしたが。これは、人類の罪を覆うために動物が死ななければならなかったという最初のしるしです。死が起こらなければなりませんでしたが。

人間の罪を覆うために血を流すことは、いわゆる贖罪の教理の一部です。贖罪。この言葉の背後にある考え方は、お互いに疎遠になった者同士がいて、彼らの関係を回復するプロセスが必要であるということです。この英語の贖罪を見てください: 「一度に」 ... 疎遠になった二つの当事者(神と人)は今や「一つ」になり、関係は回復した。

「贖罪」を意味するヘブライ語はカパールです。それは旧約聖書の中で非常に重要な概念です。関連する言葉は **kappōret** で、「贖いのふた」を意味し、契約の箱を覆っているふたであり、贖罪の日の儀式で重要な役割を果たします。

レクサム神学ワードブックからの引用をいくつか紹介したいと思います。

贖罪という言葉は、神の赦しの概念を、人間の罪悪感を取り除いたり覆い隠したり、神の怒りを背けたりすることを表しています。

旧約聖書は、贖罪を主に儀式活動として説明しています...より具体的には、贖罪の概念は、人間と神との関係が崩壊しているが、宗教的儀式によって一時的に回復できることを前提としています。動詞כָּפַר(カーパー)は文字通り「覆う」という意味です。贖罪は、罪を覆い、それによってそれを聖めるものとして想定されています。贖罪の儀式は、主に祭司によって仲介され、幕屋または神殿で行われる動物の犠牲に焦点を当てています。贖罪の儀式の主な結果には、有効期限と浄化が含まれます。これらは、神と人間との関係の崩壊は、人間の不義または罪によって引き起こされ、それが生命を汚染し、否定的な神の反応(神の怒り)を引き起こすことを示唆しています。したがって、贖罪または不義の除去は、人間の側で聖めを生み出し、神の側で宥和またはなだめを生み出します。

(Adriani Milli Rodrigues, "Atonement," ed. Douglas Mangum et al., *Lexham Theological Wordbook*, Lexham Bible Reference Series (Bellingham, WA: Lexham Press, 2014).)

ここでいくつかのキーワードに注意してください：神の赦しの概念、人間の罪悪感の除去または覆い、そして「なだめ」と呼ばれる神の怒りの背を向けること。このなだめという言葉はもう一つの重要な言葉です – 犠牲の間に血を流すことは神の怒り、私たちの罪に対する神の怒りを和らげます。

レクサム神学ワードブックからもう少し引用させていただきます：

新約聖書の贖罪の概念は、この概念の旧約聖書の概念を前提としていますが、新約ではキリスト論の観点からそれを明示的に詳しく説明しています。キリストは贖いをする祭司です(vb.ἱλάσκομαι、ヒラスコマイ;ヘブ 2:17)、贖罪の手段または場所(ἱλαστήριον、ヒラステリオン;ローマ 3:25)、そして贖いの犠牲(ἱλασμός、ヒラスモス;1ヨハネ 2:2;4:10)。新約聖書では、罪の消滅または神の赦しはキリストによって提供されます。

ここで述べられていることは、贖いの業におけるイエス・キリストの3つの働きを強調しています：主は贖罪を行う祭司であり、贖罪の場所または贖罪の手段であり、贖いの犠牲そのものです。いくつかの聖書の一節を見てみましょう。

ヘブル 2:17 – 「そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。」 イエス・キリストは神に仕える忠実な大祭司です。しかし、彼は「彼の兄弟と同じようにならなければならなかった」ことにも注意してください – 私はイースターの説教で、イエスが私たちの人間のからだを贖うためにどのように、人間のからだを引き受けなければならなかったかを説明しました。

ヨハネの手紙 第一 2:2 – 「この方こそ、私たちの罪のための、——私たちの罪だけでなく全世界のための、——なだめの供え物なのです。」キリストは神の怒りを和らげる罪のための犠牲です。このメッセージは世界中のすべての人に向けられています – 救いはキリストに信仰を置くすべての人に可能です。

レクサム神学ワードブックからの私の引用は、OIC 信仰声明の第 6 項と同様に、ローマ人への手紙 3:25 を引用しています。では、ローマ 3:24-26 を読みましょう – 「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。<sup>25</sup>神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。<sup>26</sup>それは、今の時にご自身の義を現わすためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。」

24 節 – 「義認は神のめぐみによる賜物として私たちに与えられる」これは重要なポイントです。それは彼の恵みの贈り物として私たちに利用可能にされた私たちへの無料の贈り物です。

25 節 – 「キリストは公に十字架上で犠牲となりました」これはなだめの行為であり、私たちは彼への信仰を通してこの犠牲の利益を適切に満たすことができます。旧約の時代には、神はほとんどの罪を罰せずに残されました：旧約聖書のいけにえの制度は一時的なものであり、十字架上のキリストの最後のそして究極の犠牲が私たちの罪の罰を一度だけ支払うことができるまででした。

26 節 – 神の義は、十字架での行為による方法で、罪の支払いを要求されました。それは義なる神を示されまじし同時に、彼はイエスに信仰を置く罪人に義認の道を提供します。

レクサム神学調査から引用させていただきます:

義認とは、クリスチャンの罪が彼に対して数えられないので、神が無罪として司法的に受け入れることです。

パウロは、「信じる者すべて」は行いのない信仰によって義とされると宣言しています(ローマ 3:24-25、28)。言い換えれば、信者は彼らの善行に基づいてではなく、キリストが彼らのために成し遂げたこと、信仰によって受け取られたことのために、神によって義人と見なされています。

(Tony Lane, "Justification," in Lexham Survey of Theology, ed. Mark Ward et al. (Bellingham, WA: Lexham Press, 2018).)

義認とは、クリスチャンが神によって「無罪」として司法的に受け入れられることです。キリストが十字架で私たちの罪の罰を支払われたので、彼の罪は彼に対して数えられません。過去の罪の記録さえもありません、そして未来も同様です。

パウロはいくつかの場所で、キリストを信じるすべての人は、私たちが行ういかなる働きによってもではなく、単に信仰によって義とされると宣言しています。OIC 信仰声明が述べている他の聖書の引用を見てください。

エペソ人への手紙 2:8-9 – 「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。<sup>9</sup>行ないによるものではありません。だれも誇ることのないためです。」

神の恵みによって私たちは救われます。救いは神によって始められたものであり、私たちはそれにふさわしいことを何もしていません。私たちは救いを得るために何もしていません。救いは行いの結果としては起こりません。私たちが救われるのは神の恵みによるものであり、信仰によってこの賜物を受け取るのです。

これは 16 世紀にプロテスタント改革者によって宣言された素晴らしいニュースでした。この概念は、中世のキリスト教の考えや、人が救いを得るために行うことが期待されていたその精巧な宗教活動のシステムとはまったく対照的でした。そのようなシステムは、救いを得るのに十分なことをしたかどうか確信が持てなかったクリスチャンの心に不確実性をもたらしました。

マルティン・ルターとその時代の他のキリスト教聖職者が、救いは信仰のみを通して神からの恵み深い贈り物としてもたらされるという聖書の教えを発見したとき、これは私たちがプロテスタント改革と呼ぶ運動を開始しました。彼らは間違った神学だけでなく、確立された教会における特定の虐待的な慣行にも抗議していたので、彼らは「プロテスタント」と呼ばれていました。彼らは教会を改革したいと思っていましたが、その教会から分離した運動になりました。プロテスタント運動の特徴のいくつかは、聖書が教義と実践のすべての事柄において私たちの最高の権威であるべきであるという信念、救いは何の価値もない神の恵みの無料の贈り物であり、この無料の贈り物は信仰によって受け取られるという信仰でした。大阪インターナショナルチャーチは、信仰声明と憲法で明らかにされているように、福音とプロテスタントの伝統に立っています。

もう一度、エペソの前半 2:8 を読みましょう – 「恵みによって、信仰を通して救われました…」神の恵みによって救われました...信仰を通して。私たちは信仰を持つことによ



って救われるのではありません。信仰は私たちの救いの手段ではなく、むしろ、私たちが神の恵みのこの無料の贈り物を受け取るために神が御計画された手段(道具)です。

更に、もう少しの聖句を読みます。

ヨハネの福音書 3:16 – 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ヨハネの福音書 5:24 – 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです。」

ヨハネの福音書 1:12-13 – 「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。<sup>13</sup>この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」

神は救いのプログラムを開始した方であり、私たちではありません。神は私たちがキリストを受け入れ、彼を信じることを望んでおられます。12節をも一度：しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

神は、あなたと私にこの無料の贈り物を提供しています。この贈り物をまだ受け取っていない場合は、私または OIC の他の奉仕人に相談してください、そして私たちはあなたに神との平和と永遠の命への道を示すことができます。

今日のメッセージを締めくくり、信仰告白の第 6 項をもう一度引用したいと思います。

イエス・キリストの流された御血とその復活だけが、信じる者すべての義と救いの原点となり、信仰によりイエス・キリストを受け入れた者だけが、聖霊によって生まれ変わり、神の子どもとなりうる、と信じる。